

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年5月13日(金)

NO.27



## 今変えと高見山と輝く姿

こうちょう先生へ

いつも雨がふったとき、ぜんこうちょうかいのとき、「いまをかえるんたい。」と、いろいろなことをおしえてくれて、ありがとう。ございます。これからも、いろいろなことをおしえてください。

〇〇より

うと、本当に嬉しく感じるとともに、子どもたちの純真さに頭が下がります。



さて、随分昔の話になりますが、今から50年前、私が小学校3年生(9歳)の時、一学期の終業式で、当時の校長先生が、次のような話をされたことを覚えています。

「高見山という相撲取りが、外国人で初めて優勝をしました。皆さんも、努力してがんばってください。」という内容だったと記憶しています。



当時、特に相撲に興味があったわけでもないのですが、校長先生の話として、唯一記憶に残っています。後にも先にもそれだけしか記憶にないのですが、その話を覚えていることがいまだに不思議でなりません。同時に、このことが頭に残っているの、自分自身が教師となつて、子どもたちに話をするとき、少しでも子どもたちの記憶に残るような話をしていきたい、少しでも子どもたちを変えようと思えばとの思いで話をしてきました。

そんな私が、定年を間近に控えての今回のAさんからのお手紙。50年間どころか、わずか1年の話ではあります。逆に私がこれから何十年間は、Aさんからのお手紙を糧に頑張っていかなければという気持ちになりました。ありがとうございました。

と、そんな出来事があった、ある研修会で、次のような話を聞きました。

ある調査で「あなたの夢は何ですか?」という問いに対して「夢がない」「将来に希望が持たない」と答えた子どもたちが、なんと71%もいたそう



す。なぜ、子どもたちは夢や希望を持ってなくなっているのか。

それは、私たち大人が「疲れた姿」を見せてきたこと、そして、私たち大人の「不機嫌」な姿が、子どもの夢を奪ってしまう大きな要因ではないかというのです。

仕事から帰ってきた家族の、何気ない一言。「今日も仕事疲れたよ……。」



元気のない不機嫌な家族の姿を見て、子どもたちはどう思うのか。

「大人は、いつも疲れてる」

「大人は、大変そう」

「仕事は、疲れるもの」

「大人になりたくない」

こうやって子どもたちは、夢や希望を失っていくのだそうです。

将来に夢や希望を失くしてしまった子どもたちは、何のために勉強をしているのかがわからなくなります。

私たち大人の何気ない疲れた姿、「疲れた」という一言が、どれだけ子どもたちの夢を奪ってきたのか。

大人は子どもたちにとって唯一のリーダーです。リーダーが夢を奪ってしまつてどうするのでしょうか。

上段で、「自分自身が教師となつて、子どもたちに話をするとき、少しでも子どもたちを変えようと思えばとの思いで話をしてきました。」と書きましたが、今、私たちに必要なことは、格好よく語るのではなく、子どもたちの前で疲れた姿を見せるのをやめる、人生をおもしろい楽しんでいる姿を見せていくことなのです。

学校では、「みんなと過ごしていると楽しい! 仕事は面白い! 人生は面白い!」と、そんな姿を意識して示すことが必要なのです。

高見山の話を読まれた校長先生も、きっとそういう姿を見せていただいていたのでしよう。

**大人が輝けば子どもが輝く。**

子どもが輝けば日本の未来が輝く。

輝くとは、機嫌良くいること。

輝くとは、ワクワクしていること。

**私たちが大人が輝く姿は、子どもたちに夢を与えます。**

私たちが大人が機嫌でいることは、子どもたちの夢を増やすこととなります。

私たちが大人が機嫌でいることは、世界を変えることになるのです。



**さあ、皆さん、自分たちのためにも輝きましょう!**